

## エコフィード政策に陰り？

有名なお話ですので既にご存知でしょうが、千葉県で大々的に政府の補助でスタートしたエコフィード政策の先駆け、循環型飼料化センターが倒産に追い込まれました。創業わずか2年での出来事です。エコフィードの問題点は、色々ありますが、表向きは、ここにあるような原材料の供給難とされていますが、実際には多種多様な問題点も当初からありました。

例えば、①残飯養豚と同じではないか(臭い)、②飼料の均質化は図れるのだろうか、③肉質の問題、そして最後に、④食べておいしく、しかも需要があるのだろうか などが取りざたされており、自給飼料＝エネルギー自給率を上げるためだけに見える国の取り組みを静観していました。豚肉の質だけでなく飼料の質とコスト面からもコーン大豆粕主体の飼料で進めてきている現状を鑑み、リキッドフィードや飼料米と複合的に練り上げられた農政の一つの方向性が今後どういう方向に向かうのかはとても関心があるところです。

(添付資料は飼料通信7月10日号から)

2009年7月 グローバルピッグファーム(株)

〔視点〕 農水省推奨のエコフィード早くも頓挫の懸念

農水省が無駄な食料の有効利用として推奨してきたエコ・フィード政策が厳しい状況に追い込まれている。

二〇〇七年に政府の「バイオマスの環づくり交付金」を一六億円得て千葉県で始まった循環型飼料化センター(総工費三三億円)が早くも倒産に追い込まれた。原因は折からの不況での節約ムードでコンビニから発生する破棄弁当が集まらず、学校給食からの原料確保も思わしく無かった様である。

同施設は、エコ・フィードのモデル工場とされたこともあり配合飼料業界でも多くの人が現地を視察したが二年で経営難に追い込まれてしまった。

また、神戸の飼料問屋傘下の酪農場で九〇頭弱の乳牛が死亡した。まだ、原因については明らかにされていない様だが、一部ではエコ・フィードが原因では無いかとの噂が流れている。

金満日本は、年間の食料廃棄量が一、〇〇〇万トンを超えるとも言われたことがある。確かに、食べられる食料も廃棄されていただけに無駄を無くそうと言う発想は良かったと思える。しかし、原料が安定しないことや牛由来残渣の混入懸念など問題点も多く指摘されてきたが最大の敵は不景気により無駄を無くそうと言う動きだけに、評価は難しいがやはり設備よりソフトに問題があったのかも知れない。